

『されど、我がふるさと』 言の葉編

田原市 坂場 茂美

プロローグ

尊敬する、松浦先生、お元気ですか。

先生が描かれたふるさとの風景、人、ものがたりの絵は、町のそこかしこで、今も静かに私たちを見つめてくれています。

先生がふるさとの山河と人たちに注がれた温かなまなざしを、私も、ほんのひとかけら、もつことができたらと、思う日々です。

先生のように絵を描くことができな私ですが、ペンと紙と言葉で、私を育ててくれた小さな町「たはら」のことを描きたいと思います。先生がくださった画集「されど、我がふるさと」に倣って。

春に詠む 川沿いの散歩道にて

ベビーカー、愛犬、夫婦、車椅子

あなたと来たい 桜トンネル

夏に詠む　　く海にてく

幼き日　泳いだ海に足浸す

遊泳禁止の文字眺めつつ

秋に詠む　　く菊花大会にてく

大輪の菊花を育てし横顔の

幾重の皺は　花びらの曲線

冬に詠む　　く懐かしい瞬間く

自転車を立ちこぐ頬に　からっ風

スカート舞い上がる　成章坂

先生、ふしぎですね、生まれ育った町というのは。ただ、なんとなく、大切に、いとおしく感じるものなのですね。

なんだか、ちょっと恥ずかしいけれど、ふるさとを描く言の葉を、これから、少しずつ見つけていこうと思います。

だから、エピローグは、もっと先に。